

総合診療学 I

(総合診療医指導者育成コース必修科目)

授業概要

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

担当教員

熊倉 俊一 (主担当)	教授・地域医療教育学
石橋 豊	教授・総合医療学
廣瀬昌博	教授・地域医療政策学

一般目標 general instructional objectives

1. 地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。
2. 医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。
3. 地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて、基本的な技能と態度を身につける。
4. 信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナルリズムを身につける。
5. 将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。
6. 研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。
7. 研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標 specific behavioral objectives

1. 解決すべき地域医療の課題を説明できる。
2. 地域医療の課題に対する解決策を列挙できる。
3. 海外と日本の医療の違いを概説できる。
4. 研究における倫理と利益相反を説明できる。
5. 自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。
6. 良好な患者・医師関係を構築することができる。
7. 地域医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。
8. 教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。
9. 優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

成績評価の方法

授業の出席状況および各授業における目標到達度等に基づいて評価する。

使用テキスト・参考文献

医療プロフェッショナルリズム教育 リチャード・クルーズ 他
日本評論社医学教育の理論と実践 ロナルド・ハーデン 他 篠原出版新社

教育内容（講義および演習）

回	授業内容	
1	総合診療学総論	熊倉 俊一
2	世界の地域医療の現状と課題	熊倉 俊一
3	島根県における地域医療の現状と将来展望	熊倉 俊一
4	総合診療を担う人材育成	熊倉 俊一
5	Common disease と生活習慣病（1）	熊倉 俊一
6	Common disease と生活習慣病（2）	熊倉 俊一
7	がんと総合診療	熊倉 俊一
8	地域医療と町創り	石橋 豊
9	地域医療における病院、開業医、診療所の役割	石橋 豊
10	地域医療における病病連携と病診連携	石橋 豊
11	地域医療における保健・医療・福祉連携	石橋 豊
12	地域医療に関する研究とその方法（1）	廣瀬昌博
13	地域医療に関する研究とその方法（2）	廣瀬昌博
14	地域医療に関する研究と医療倫理	廣瀬昌博
15	ビッグデータを用いた地域医療の考え方	廣瀬昌博